



冬山遭難の救助技術を学ぶ

猪苗代地区山岳遭対協が救助訓練



救助にあたっての注意事項に耳を傾ける参加者ら

町山岳会、警察署や消防署などで組織する猪苗代地区山岳遭難対策協議会は2月29日、猪苗代スキー場で冬山遭難救助訓練を実施し、万一の事故に備えました。

訓練には、同協議会の会員と猪苗代スキー場のパトロール隊員ら約30人が参加、スノーシューを履いての歩行訓練、ゾンデ棒を使った捜索訓練や雪洞づくりなどに取り組みました。

雪が降りしきる中での訓練となりましたが、参加者らは、救助技術や知識の向上のため、真剣な表情で訓練に取り組み、冬山の遭難事故防止に向けて決意を新たにしました。

火山災害への認識を新たに

学びいなどで火山防災講演会を開催



住民や消防団員など約400人が詰めかけました

磐梯町、北塩原村と本町で組織する磐梯山火山防災連絡会は3月11日、学びいなどで火山防災講演会「火山災害と防災対策」を開催しました。講演会は、震災から1年が経過したこの日に、あらためて火山災害について考えてもらおうと企画されたもの。

福島地方気象台の大嶋強火山防災官が磐梯山の現況などについて説明した後、内閣府火山防災エキスパートの池谷浩氏と杉本伸一氏が講演。池谷氏はハザードマップを活用し、いざという時は「逃げる勇気」を持つことが大切と訴え、杉本氏は防災教育の重要性や火山と観光との融合などについて話しました。

美しい猪苗代湖取り戻そう

水環境保全のため軽トラック寄贈



右から中村岳嗣事務局長、笠間猪苗代RC会長、大橋会長

県内のロータリークラブ(以下RC)で組織する、ロータリー猪苗代湖水環境協議会の大橋廣治会長、笠間正猪苗代RC会長ら5人は3月30日、町役場を訪れ、猪苗代湖の水環境保全活動に役立ててほしいと軽トラック1台を寄贈しました。

同協議会は、22年から湖水の浄化活動に取り組んでおり、その活動や町の清掃活動などに活用してほしいと寄贈を決めたものです。大橋会長は「郡山の発展を支えてきたのも猪苗代湖の水。県民の水源の保護は、住民全体の急務」と述べ、前後町長に目録を手渡しました。

困難に負けず学んでほしい

野口英世記念館が避難児童に寄付



八子館長(右)から寄付を受け取る久米本校長(左)

野口英世記念館から町小・中学校長会への募金の贈呈式は3月2日、町役場で挙行され、同館の八子弥寿男館長が校長会の久米本哲夫会長(猪苗代小学校長)に浄財185,327円を手渡しました。

八子館長は「短期間にもかかわらず、多くの善意が集まった。子どもたちのために有効に使ってほしい」とあいさつ。久米本会長は「子どもたちの代理で受け取ります。避難生活を送る児童・生徒のために使わせていただきます」とお礼を述べました。

この募金は、野口英世記念館が被災した子どもたちのために募金箱を設置し、来館者などに呼びかけたものです。

音楽でつながった善意届く

本町の音楽教育振興のために寄付



前後町長(左)に寄付を手渡す関田さん(右)

東京都の中野坂上ウインドオーケストラの関田裕一さんは3月5日、町役場を訪れ、音楽教育など町の文化活動に役立ててほしいと6万円を寄付しました。

この寄付は、同オーケストラが昨年12月と3月に開催したチャリティーコンサートで、来場者や団員から募った善意。同オーケストラを主宰する関田さんが本町出身で、昨年12月に開かれたいなわしろ音楽祭に出演するなど、猪苗代吹奏楽団と交流していることから実現したものです。寄付を受けた前後町長は「皆さんの善意に感謝します」とお礼の言葉を述べました。

地域を守る消防団員に辞令

町消防団辞令交付式が開催される



土屋団長から各分団の代表に辞令が手渡された

町消防団の辞令交付式は4月1日、役場正庁で開催され、175人の消防団員に辞令が交付されました。

土屋孝彦団長は「先の震災では、多くの消防団員が犠牲になった。皆さんがけがをしたら、守れるものも守れなくなってしまう。自分の身を守るということを考え、細心の注意をはらって消防活動にあたってほしい」とあいさつし、各分団の代表者に辞令を手渡しました。新入団員を代表し、五十嵐浩美さん(第3分団)が「良心に従って消防の義務を遂行します」と宣誓、土屋団長から消防団の法被を受け取りました(関連2ページ)。